

友好都市ニューオーリンズ市との交流 ～再び結ばれた「縁」、そして高め合う未来へ～

島根県松江市産業観光部国際観光課

自治体国際交流表彰事業は、日本の自治体と海外の自治体の姉妹自治体提携に基づく交流活動のうち、創意と工夫に富み、かつ地域振興に資するような取り組みを行っている団体を、2006年度より表彰しております。第8回となる2013年度は、松江市（島根県）、大分市（大分県）の2団体が受賞しました。本号では、松江市の取り組みを紹介します。

友好都市提携の経緯

松江市とニューオーリンズ（米国）の縁結びの立役者は、耳なし芳一や雪女、ろくろ首などの『怪談』の著作で有名な「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）」です。八雲が松江に来て100周年にあたる1990年に、八雲が幼少期を過ごした「ダブリン市」と、新聞記者として10年余を過ごした「ニューオーリンズ市」と、英語教師として滞在し、生涯の伴侶となった小泉セツと出会った「松江市」の3都市で、「国際三都市会議」を開催しました。このことがきっかけとなって、その後も交流が続き、1994年3月に友好都市提携を締結しています。

ハリケーン・カトリーナ

友好都市提携締結以降、両市は、ジャズ演奏家招待、芸術家の交流、中学生の交流など、順調に交流を積み重ねておりました。

ところが、2005年8月に超大型ハリケーン「カトリーナ」がニューオーリンズを襲い、大変大きな被害が出ました。当時、松江市から、すぐにお見舞いの書簡を送るとともに、市民から義援金を募り、送付しました（余談ですが、この時の松江をはじめとする日本各地からの支援に対する恩返しとして、東日本大震災の時には、ニューオーリンズ市において、「NOLA日本地震基金」が設立され10万ドル以上の義援金が寄せられました）。

しかし、やむを得ないことながら、このカトリーナの被災以降、ニューオーリンズ市との具体的な交流事業は、約6年にわたり中断してしまふことになったのです。

交流の再開

転機は、2010年5月のランドリュー新市長の誕生でした。ナシュビルの日本総領事館の皆様や地元の名士であり、新市長とも親しい在ニューオーリンズ名誉総領事のドナ・フレッシュ氏、ニューオーリンズ日本庭園協会のジャック・ストロング会長（当時）のご協力もいただきながら、交流再開の可能性を探っていきました。そして、2011年10月には、実に友好提携以来のトップ会談となる松浦市長とランドリュー市長の現地会談が実現して交流再開となったのです。

再開以降は、中断の前以上に積極的な交流を行っています。2012年10月には、ニューオーリンズで小泉八雲の著作や愛用品、



ミッチ・ランドリュー市長（中央）と会談する松浦市長（中央左）

八雲の開かれた精神性を表現する絵画などのアート作品を展示する「小泉八雲造形美術展」を開催しました。併せて、経済界や大学生からなる市民訪問団の派遣を行い、特産植物交換セレモニー、

ニューオーリンズ・ジャパンフェスタへの参加などを行ってまいりました。特産植物交換セレモニーで、松江市島根町特産のイチジクの穂木と交換して持ち帰ったオクラの種は、翌年度以降、市内小学校のニューオーリンズ学習に活かされています。

友好都市提携20周年

友好都市提携20周年の記念事業として、2013年10月にはニューオーリンズ市から松江市に訪問団をお迎えして記念式典（セレモニー・ジャズコンサート）を行ったほか、ニューオーリンズ交流写真展や、小学校におけるニューオーリンズについての学習、記念ジャズライブなどさまざまな事業を行いました。市民グループや各種団体、企業などからなる記念事業実行委員会をつくり事業を実施したことにより、行政にとどまらず、幅広く友好気運を高めることができました。特に、ニューオーリンズのカーニバル「マルディグラ」を松江風に子ども主体の演奏パレードにアレンジした「リトル・マルディグラ」では、多くの松江市民がニューオーリンズの文化に触れる機会となりました。



中心市街地で行ったリトル・マルディグラ

このイベントは、ニューオーリンズやジャズの愛好家で構成される「ニューオーリンズ倶楽部」が主体とな

って実施しましたが、松江市では、このように市民団体・グループ主体で、ジャズを取り上げて行うイベントが複数行われ、中心市街地の活性化に寄与しています。

TOMODACHIプログラム

2013年10月の松江訪問団に参加された在ニューオーリンズ名誉総領事のドナ・フレッシュ氏がニューオーリンズ日本協会において松江訪問についてお話をされたことがきっかけとなり、この8月に松江市の青年交流団8人をニューオーリンズにご招待いただけることになりました。東日本大震災の復興支援を機に始まった日米の次世代リー

ダー育成を目指すTOMODACHIイニシアチブのプログラムを活用し、この交流は行われます。また、2015年度は、ニューオーリンズ市から青年交流団を派遣していただける計画もお聞きしています。参加する両市の若者には、両市の文化を学ぶとともに、若い世代の交流を通し、今後の交流を担う人材になっていただけたらと期待しています。

高め合う未来へ

最後に、ニューオーリンズとの今後の交流について、民間団体・市民グループとの一層の連携を図りながら、3つの視点で進めていきたいと思えます。

一つ目は、若い世代の交流の促進です。小泉八雲は、「人種や国籍に対して偏見を持たず、他者に共感できる、開かれた心」すなわち、「オープン・マインド」の精神を持ち続けました。今後、特に両市の若い世代が「オープン・マインド」の精神を持って、将来にわたり交流を担っていきけるよう、ニューオーリンズ側と協力して人材育成に努めていきたいと考えています。

二つ目は、ジャズをテーマとした街づくりです。ジャズ発祥の地であるニューオーリンズと友好都市であることを活かし、ジャズを通じた交流やイベントで市街地の活性化を図っていきたく考えています。今年も市民グループが主体となり、10月5日の「リトル・マルディグラ」開催に向けて、準備を進めています。いつか、「ニューオーリンズ」と言ったら「松江」、「ジャズ」と言ったら「松江」だという印象を広く持ってもらえるような街になればと思います。

三つ目は、お互いの街の魅力を相互に発信していきたいと思えます。ニューオーリンズは、ジャズが響きわたる美しいフレンチクォーター、そして風味豊かなクレオール料理など、異文化の接触と融合という歴史の中で育まれた他者を引きこむ街の魅力を持っています。一方、松江市も神話の世界から城下町の茶の湯文化に至るまで特色ある歴史文化と心癒やされる豊かな自然を誇っています。両市は、互いの文化や街の魅力をPRし合い、両市の知名度、そしてブランド力を高めていけたらと考えています。